

# 北海道浮魚ニュース

令和 6（2024）年度 12 号

2024 年 8 月 27 日

道総研 水産研究本部 函館水産試験場

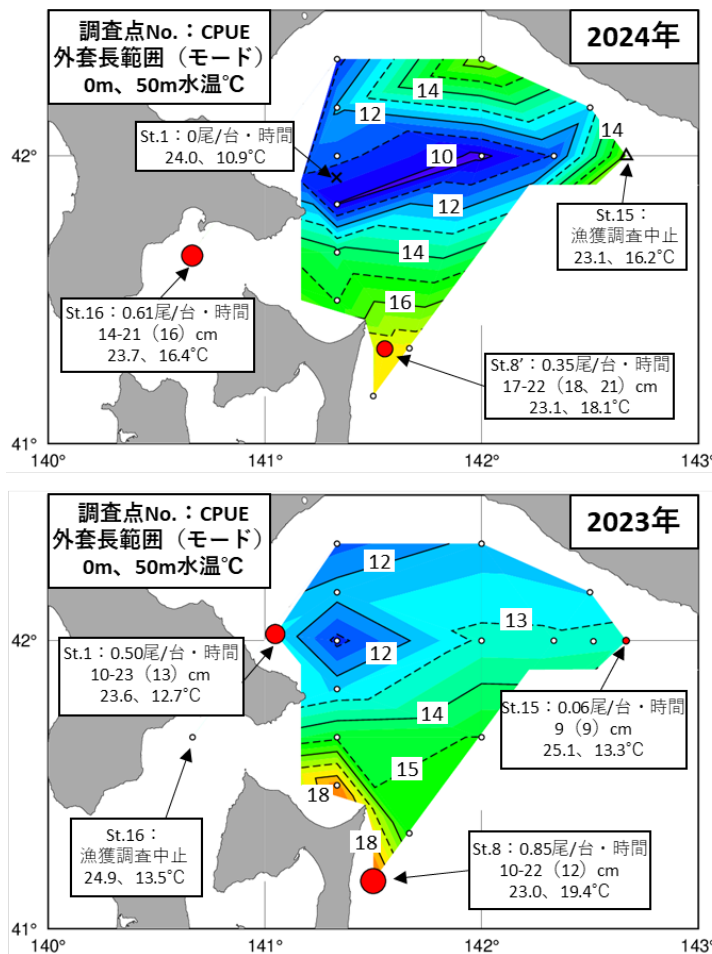
【URL】 [https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo\\_news.html](https://www.hro.or.jp/fisheries/research/kushiro/topics/ukiuo_news.html)

## ◎太平洋いか類漁場一斉調査結果

8 月 18 日～22 日の期間、津軽海峡～道南太平洋で、函館水産試験場調査船金星丸（151 トン、イカ釣機 5 台、集魚灯 20 灯装備）により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・スルメイカの分布密度は低く、昨年および過去 5 年平均を下回った。
- ・サイズは昨年より大きいですが、過去 5 年平均より小型個体の出現率が高かった。

### 1. 水温分布（図 1）



2024 年の漁獲調査点 3 点の表面水温は 23.1～24.0°C（昨年 23.0～25.1°C）、深度 50 m 層の水温は 10.9～18.1°C（昨年 12.7～19.4°C）であり、昨年と同程度からやや低くなっていました。

深度 50 m 層の水温は津軽海峡東側～下北半島周辺で高く、昨年と同程度でしたが、恵山沖から日高沖にかけての海域は沿岸を除いて 12°C 以下となっており、昨年よりも低水温でした。

図1 スルメイカ漁獲調査結果と深度50mの等温線図（上：2024年、下：2023年）

矢印の先は漁獲調査点で●の大きさはCPUEに比例。×：漁獲が無かった点。

△：漁獲調査中止で海洋観測のみの点 ○：海洋観測点

※ St. 8の漁獲調査は荒天回避のために位置を変えたため St. 8' とした

## 2. 流向流速分布（図 2）

航行中の ADCP 観測により得られた深度 50 m 層における流向流速と水温分布を照らし合わせると、津軽海峡東部から東へ向かう強い流れがあり、津軽暖流が浦河沖まで大きく張り出してから南下する渦モードになっていると考えられました。昨年と比べて 2024 年は津軽暖流と北側にある冷水との温度勾配が大きくなっていました。

道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらもご参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/fisheries/research/central/section/kankyou/sokuhou.html>

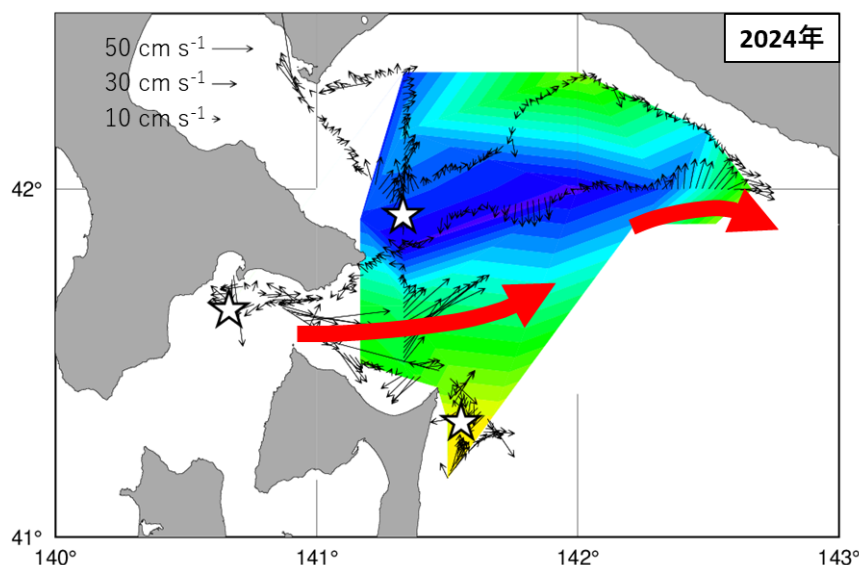


図 2 2024 年の深度 50 m 層における流向流速（細い矢印）と水温分布図  
赤い矢印は津軽暖流の模式図 ☆は漁獲調査点

## 2. スルメイカの分布密度（図 1、3）

2024 年の漁獲調査点における CPUE（2 連式イカ釣機 1 台 1 時間当たりの漁獲尾数）は St. 1（木直沖）が 0 尾/台・時間（昨年：0.50、過去 5 年平均：1.66）、St. 8'（下北半島東沖）が 0.35 尾/台・時間（昨年：0.85、過去 5 年平均：1.86）、St. 16（函館沖）が 0.61 尾/台・時間（昨年：漁獲調査中止、過去 5 年平均：5.13）であり、3 調査点とも過去 5 年平均を下回り、St. 1 と St. 8' は昨年の値も下回りました。また、2002 年以降でみると、St. 1 は 2019 年と同じ値で過去最低、St. 8' は過去 3 番目に低い値、St. 16 は過去最低の値となりました。なお、St. 15（浦河沖）は荒天回避のため海洋観測のみ実施し、漁獲調査は中止となりました。

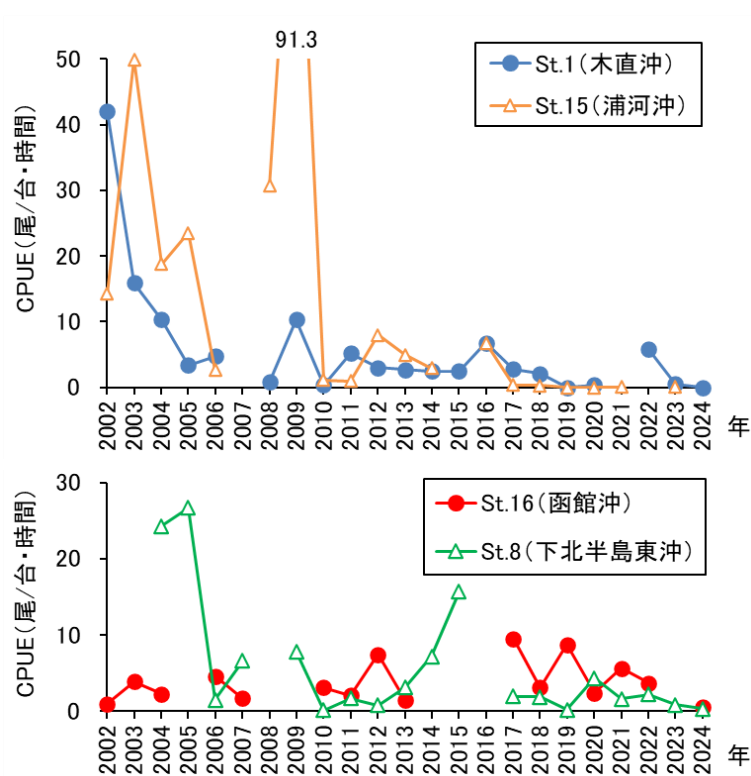


図 3 太平洋いか類漁場一斉調査（道南太平洋 8 月）におけるスルメイカの CPUE の推移

### 3. スルメイカの大きさ（図 4）

2024 年のスルメイカの外套長は 14～22 cm（昨年 9～23 cm）の範囲にあり、16 cm、21 cm に出現率のピークがありました。昨年と比較すると 15 cm 以上の出現率が高くなっていましたが、過去 5 年平均と比較すると、15～16 cm の小型個体の出現率が高くなっていました。

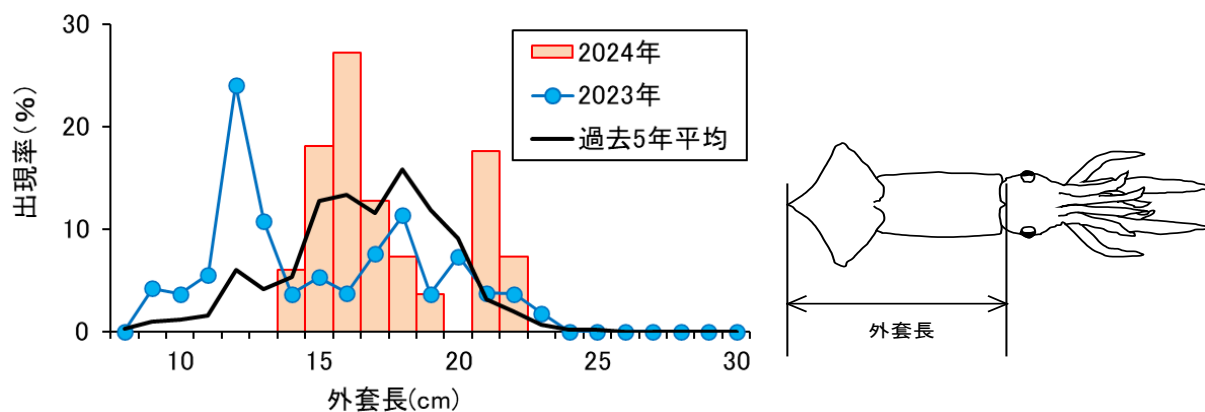


図 4 調査海域全体のスルメイカの外套長組成

※本調査は水産資源調査・評価推進委託事業により実施しました。

（函館水産試験場調査研究部 TEL：0138-83-2893、FAX：0138-83-2849）